

## 「池の生物プロジェクト (The Pond Life Project)」の紹介

下田路子\*

Michiko Shimoda: The Pond Life Project in Europe

今年の3月に、イギリスのフル (Andrew Hull) 博士から、農村の池の保全を目的とする事業、「池の生物プロジェクト (The Pond Life Project)」の資料を送っていただいた。イギリスの池と日本のため池とでは、池の起源や利用形態は異なるが、池が抱える問題には共通するところも多い。このプロジェクトについての情報が、日本のため池の保全に参考になる点もあると思うので、以下に紹介したい。

### 北西イングランドの農地の池

第四回国際湿地会議が、1992年9月にアメリカ合衆国オハイオ州コロンバスで開催された。筆者は、「湿地：人間の歴史と利用」と題するセッションで、都市化がため池植生に及ぼす影響について発表した。この時、同じセッションで、「北西イングランドの農地の池：消え行く湿地資源」のタイトルで、フル博士が発表された。

イングランドのチェシャー州には、18～19世紀にマール (泥灰岩) を採掘した跡に水がたまってできた池が多数ある。池は灌漑に利用されていたが、現在は、遷移の進行や埋め立てにより姿を消しつつある。これらの池は、野生生物の保全の観点から価値が高まっているため、池がチェシャー州の景観の特色として今後も存続できるように行動を起こす必要があるとフル博士は述べられた (BOOTHBY *et al.* 1992)。

セッションが終了した後で、フル博士と、お互いによく似た状況の池を取り扱っているものだと話しあった。

### 池の生物プロジェクト (The Pond Life Project)

第五回目の湿地会議は、1996年9月に西オーストラリア州パースで開催され、筆者が発表を行った「湿地の保全」のセッションでフル博士と再会できた。フル博士は、The Pond Life Project がうまくいっていることを、

うれしそうに話してくれた。またフル博士は、「湿地管理における住民参加」のセッションで、このプロジェクトについて紹介された (HULL & BOOTHBY 1996)。帰国後、プロジェクトについてもっと詳しく知りたいことを伝えると、いくつかの報告書や論文を送ってくださった。このうちの「Information Pack」(図1)には、プロジェクトの目的や内容が簡潔に示してあるので、それに従ってこのプロジェクトを紹介してみよう。

### 1. 池の生物プロジェクト (The Pond Life Project)

1995年3月に始まったこのプロジェクトは、4年間の実験的な事業であり、110万ポンドをかけて実施される。

プロジェクトの目的は、農村の小さな水域 (池) の保全モデルを開発し、また実行することである。

プロジェクトは以下のことをめざしている：

- \* 農家と土地管理者が、自分たちの技術を、土地を管理しまたその土地をよい状態で次の世代に渡すために使う機会を提供する。
- \* 地域社会が、自分たちの景観遺産を世話することを奨励する。
- \* 北西イングランドの低地農村景観の多様性と特色を改善する。
- \* 減少しつつある野生生物の生息地を、保全しまた拡大する。
- \* 保全の努力と資源を、公共の利益を生むために用いるように努める。
- \* イギリス全体、さらに池の多い景観が危機に瀕している他のヨーロッパの国々においても適用できるものとする。

### 2. 背景

池そのものは小さな景観の要素にすぎないが、池の密度

\*東和科学株式会社 生物研究室

The Pond  Project



---

**United Kingdom Partners**  
Liverpool John Moores University  
Cheshire County Council  
Lancashire County Council  
Vale Royal Borough Council  
Warrington Borough Council  
Wigan Metropolitan Borough Council  
Wirral Borough Council  
Cheshire Farming & Wildlife Advisory Group  
Lancashire Farming & Wildlife Advisory Group  
Cheshire Wildlife Trust  
Lancashire Wildlife Trust  
National Rivers Authority North West Region

---

**Belgium Partner**  
Instituut voor Natuurbehoud  
*Institute of Nature Conservation*

---

**Denmark Partner**  
Danmarks Miljøundersøgelser  
*National Environmental Research Institute*

---

**Netherlands Partner**  
Instituut voor Bos- en Natuuronderzoek  
*Institute for Forestry and Nature Research*

---

図1. 「Information Pack」の表紙





図2. 「Information Pack」の裏表紙。プロジェクトに参加している機関を示している。

が高い所では、池は変化に富む湿地のパッチワークをつくっている。また、池は、やぶ、半自然草地、沼沢地などととも、農村の生物多様性に貢献している。

ここ50年間は、農業形態の変化が速く、小さな水域のようなかつては農村にありふれていたものがなくなったり、また残っているものでも、思いやりのない管理により危険な状態にある。チェシャー州のように池の多い州でさえ、農地にパイプで水が供給されるようになり、池が役に立たなくなった。このため、農家にとって、池は埋め立てるか、農地に変えるか、柵で囲うか、あるいは見捨てるべき土地となった。

このような池の変化に気づいたこと、またこの変化への危惧がプロジェクトを生むこととなった。

### 3. プロジェクトの共同者

15の公的あるいは私的な機関がプロジェクトに参加しており（図2）、このうちの12がイギリスの機関である。

またベルギー、デンマーク、オランダからもそれぞれ各1機関が参加している。これらに共通の問題は、農村景観における小さな水域の消失であり、問題解決のために、アイデアや情報の交換を行っている。

プロジェクト・マネジャーはフル博士である。

#### 4. 地域社会による保全

地域社会による保全は、プロジェクトの基礎となっている。地域住民は、プロジェクトに参加している機関から支援や助言を受けて、プロジェクトに参加できる。プロジェクトの成功は、農村の池が野生生物にとって価値が高いことを、地域社会が気づくことにかかっている。

そこで、地域住民が地元の池の保全と管理を受け持つ「池の管理人組織 (Pond Warden Scheme)」を導入することになった。

#### 5. 池の情報ネットワーク (Pond Information Network: PIN)

地理情報システム (GIS) を適用するこのネットワークは、「池の管理人組織」に所属するボランティアによって集められた生物や土地利用に関するデータを、各自が直接データベースに追加することにより発展していく。また、利用者は、地域レベルや州レベルの情報をデータベースから得ることができる。

ネットワークのメンバーは、調査やデータ処理などの、プロジェクトに関連する研究会に参加できる。集められたデータは、ネットワークを通じて他のメンバーに伝えられる。こうして、利用者は多くの情報を得ることができ、また自分の情報を新しいものに更新できる。

#### 6. プロジェクトの産物

- 生態学的な自覚を持ち、また池とその保全方法を理解している地域社会
- 農家と地域社会のための、池の持続的な管理と修復を奨励する実用的な参考書 (Best Practical Manual) とビデオ (Video Package)

- 土地利用計画立案者、農家、地域のボランティアを対象とする研究会とセミナー
- 利用者のための、池の情報ネットワーク (Pond Information Network)
- 中間報告書と最終報告書
- 池の生物の保全が盛んになることと生息地の改善
- 危険な状態にある種の既存の集団の維持と、可能な場所での拡大と再生

#### 終りに

プロジェクトの詳しい情報を希望される方があれば、下記のフル博士あてに連絡されると、資料が入手できる。

なお、プロジェクトにくわえて、さらに「国立池の生物センター (National Pondlife Centre)」の建設計画が、フル博士を中心に進められているとのことである。

フル博士の住所: Dr. Andrew Hull, The Pond Life Project, Liverpool John Moores University, 15-21 Webster Street, Liverpool, L3 2ET, U. K.

#### 引用文献

- BOOTHBY, J., HULL, A. P., JEFFREYS, D. A. & SMALL, R. W. 1992. Farm ponds in North West England: A disappearing wetland resource. In *Program & Abstracts of INTECOL's IV International Wetlands Conference*: 121. Columbus, Ohio.
- HULL, A. P. & BOOTHBY, J. 1996. The Pond Life Project: Involving the community in wetland management. In *Conference Programme and Book of Abstracts of INTECOL's V International Wetlands Conference*: 111. Perth, Australia.